

約83千尾のサワラを放流しました！

香川県は、これまでも日本で一番多くの大型サワラ種苗を放流し、漁業者と一丸となって瀬戸内海系群サワラの資源管理取り組んでいます。



水研屋島センター・岡山県栽培漁業センターと共同で採卵



小田中間育成場から海へ出て行くサワラ

5月の11日、12日に水産試験場、水産課、県漁連及び水産総合研究センター屋島栽培漁業センター【以下、水研屋島センター】と共同し、14日には、岡山県栽培漁業センターも加わり夜間の採卵に出航しました。

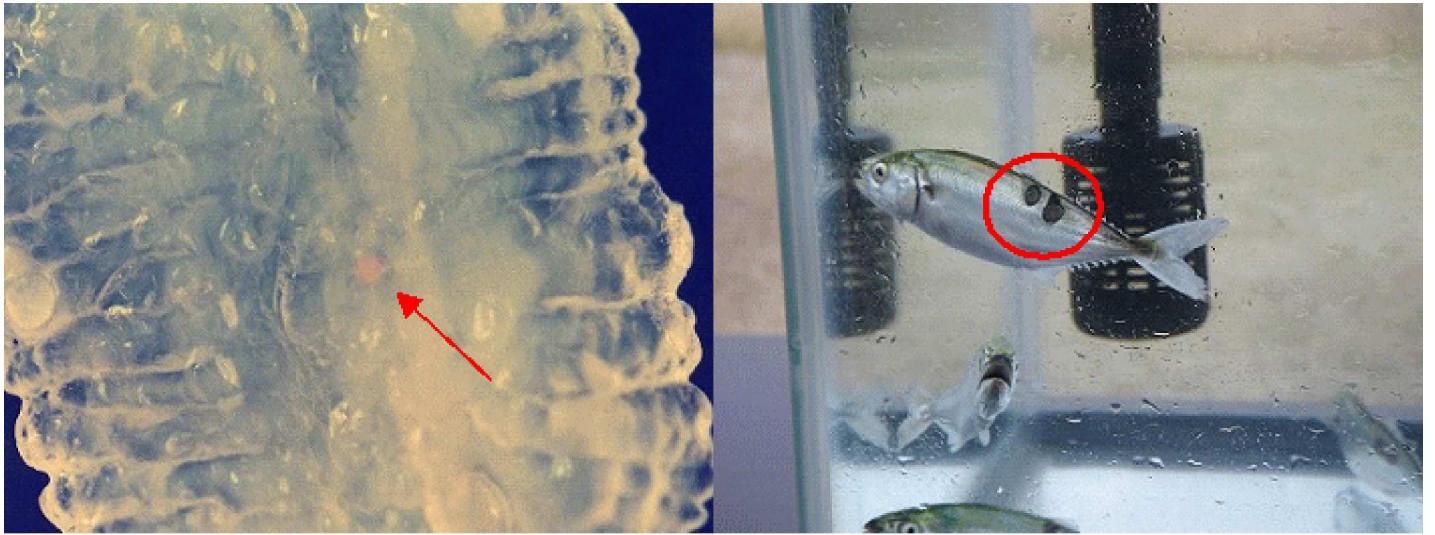
漁業者から、親魚用に51尾のサワラをもらい受け、内29尾から採卵もしくは採精することができました。採卵親魚の29尾には、平成19年に放流したものが2尾含まれていました。

サワラ卵は3,211千粒を採卵して、1,800千粒が受精しました。

この受精卵うち、1,008千粒を水研屋島センターが管理を行って、459千尾がふ化し、種苗生産を開始しました。残りの受精卵は岡山県、大阪府等へ配付して、それぞれが種苗生産に用いました。

6月8日に、水研屋島センターで全長38mmに成長したサワラ種苗66千尾(5月11日採卵)を、さぬき市小田の大規模中間育成場【以下、小田中間育成場】へ移送、9日には、37mmに成長したサワラ種苗)29千尾(5月12日採卵)を女木漁協へ、6千尾を引田漁協へそれぞれ移送して、中間育成を開始しました。

そして、6月19日に女木島漁協から全長74mmに成長したサワラ種苗21千尾を放流し、22日には小田中間育成場から全長106mmに成長したサワラ種苗57千尾、引田漁協からは全長約90mmに成長したサワラ種苗5千尾を放流し、合わせて、約83千尾を香川県から放流することができました。



放流したサワラに付けているALC標識(全ての放流魚)と焼印標識(一部の放流魚)

放流したサワラには、放流魚と分かるように「標識」をつけています。今年のように、標識を付けた放流魚がサワラが親となっていることが分かっています。サワラ資源回復に向けた取り組みが、放流魚の再捕だけでなく、再生産にも寄与し、確実に成果を上げてきています。しかしながら、瀬戸内海系群のサワラ(日本海で漁獲されているものとは系群が異なります)の資源量は、まだまだ少なく、これからも漁業者と一丸となって取り組んでいきます。